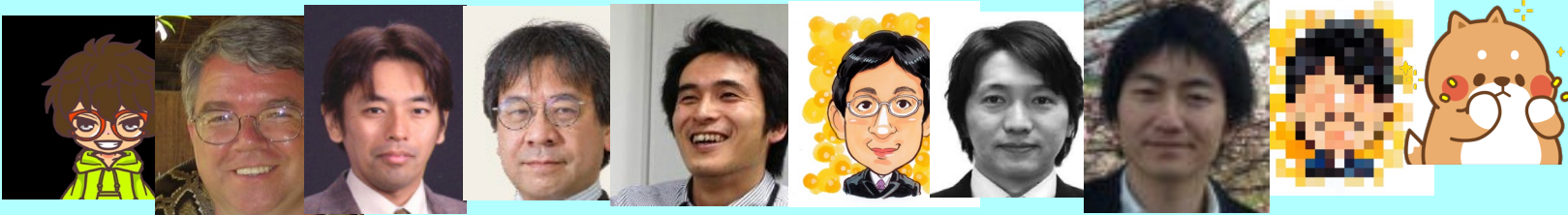


# 2008年頃iRIC発足当時



## iRIC研究会 + RIC(北海道河川財団)



- iRIC-GUIの開発・リリース・バージョンアップ
- マニュアル・事例集の作成・メンテナンス
- iRIC活動全般（国内・国際）の企画・主催
- iRICソフトの開発方針についての意見集約
- 最新技術・関連技術の調査
- 研究者・技術者コミュニケーションの充実・拡大の取り組み
- PR活動(SNS活動含む)
- iRICウェブサイトの運営
- ユーザーコミュニティのサポート
- ソルバ開発者のケア, 技術的援助

### 問題点

- 内容が複雑多岐になってきた
- iRICとRICの役割分担で混乱が生じた

# 日本国内におけるiRICの活動体制(2018年10月以降)



## iRIC研究会

- iRIC活動全般（国内・国際）の方針決定・主催
- iRICソフトの開発方針についての意見集約
- バージョンアップ方針の決定
- 最新技術・関連技術の調査
- 研究者・技術者コミュニケーションの充実・拡大の取り組み
- ユーザー・ソルバ開発者の拡大活動

依頼

報告

## (一社)iRIC-UC

- iRIC活動の支援（講習会，シンポジウム）
- iRICウェブサイトの作成・管理・運営
- ユーザー対応
- SNS活動
- ソルバ開発者のケア，技術的援助

依頼

GUI開発

## RIC(北海道河川財団)

- iRIC-GUIの開発資金援助
- 行政との連携などのアドバイス

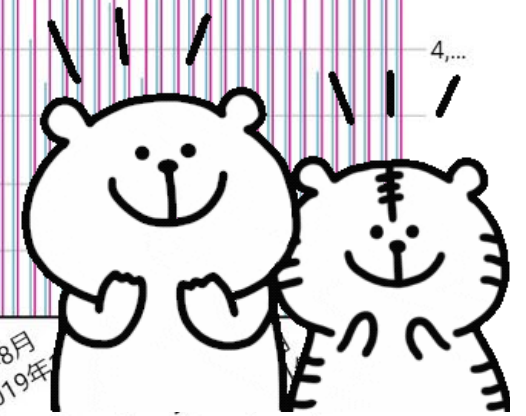
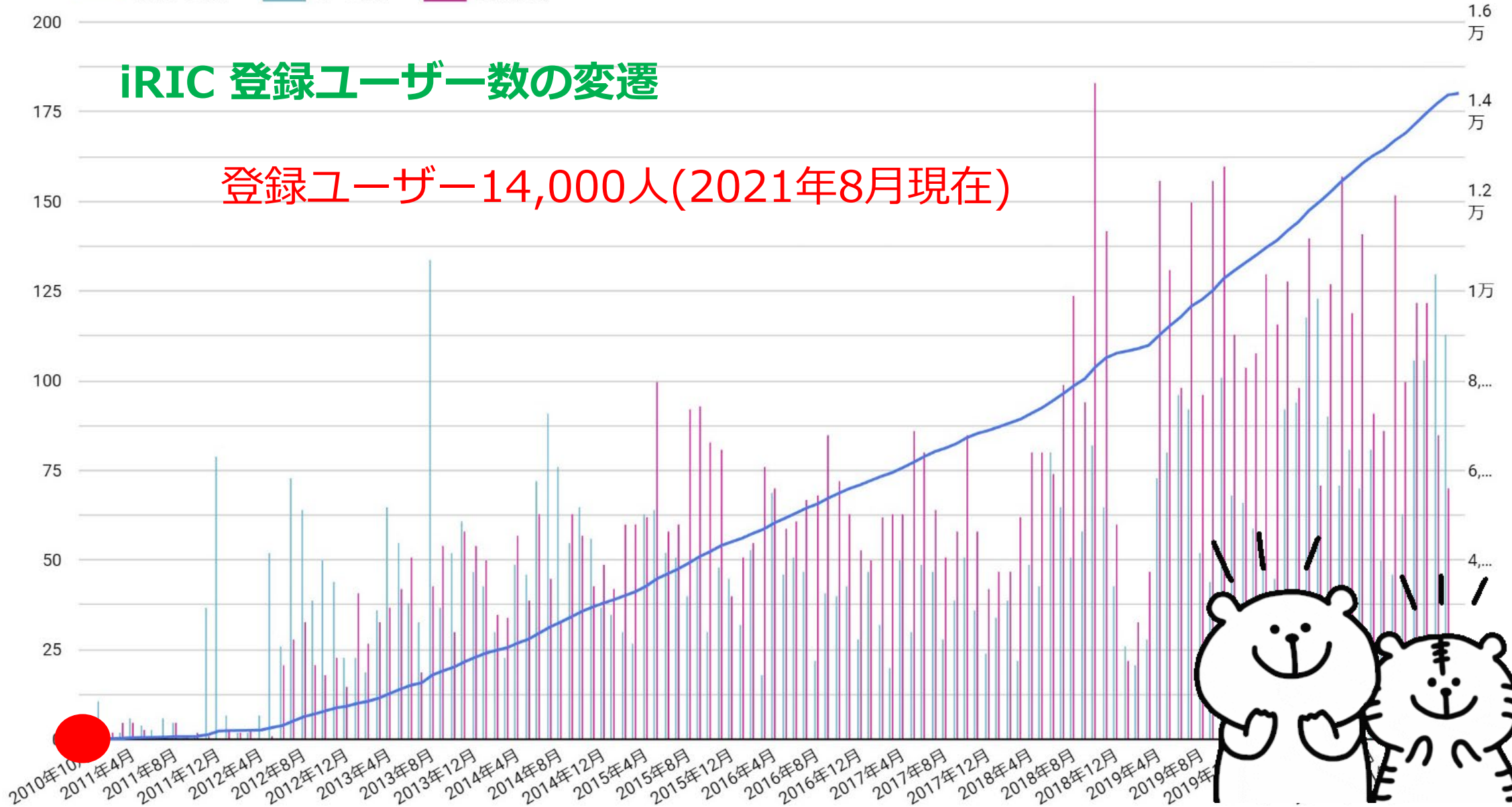
連携



— Total User   ■ JP User   ■ EN User

## iRIC 登録ユーザー数の変遷

登録ユーザー14,000人(2021年8月現在)



まずは、前回から相当時間が経ってしまいましたのでこの3者体制スタート以降過のそれぞれの活動報告をして頂きます。

概ね、順調に進んでいるという報告になると思いますが、中には上手く行っていない部分や先行きに対する不安要素もあるようです。

今日の後半では、不具合部分の紹介と、これの解消に向けての提案をさせて頂きます。

# 研究会・座談会・討論会・個人会話・SNSなどで湧いてくる問題点

- 爆発的なユーザー増加に対してユーザーのニーズに対応しきれていない。
- 開発・サポート・メンテナンスの人材不足，スタッフの固定化・高齢化
- コロナ禍のオンライン需要に対応しきれていない。
- CIMやDXなど最新技術に対応しきれていない。
- iRIC-UCの会費・会員だけを財源とする様々な活動には限界がある。
- iRICのソルバ乱立状態でユーザーに混乱を与えている。サポート・更新が全くされていないソルバもある。
- iRICは所詮北海道の人たちのものというイメージで全国的な仲間を取り込みにくい。潜在的には一緒に何かやりたい人はいるはず。
- 欧米の競合ソフトに対する調査不足，国際的協力メンバー不足→土木学会？
- 3組織の役割分担・境界線を作った結果，自分の役割に徹してしまい，縦割りになってしまった。
- iRIC研究会とiRIC-UCが同じ人物が代表というのはおかしい。
- 物事の決定機関，決定基準が不明瞭である→要望がすべて同一人物に集中する
- 研究者のモチベーションを上げる仕組みが無い
- 会社の間がボランティアでやるのは厳しい，土木学会の活動とかだとやりやすかな？
- 水工学委員会の部会を横断した組織を作ってはどうか？
- そもそもiRIC研究会は何をやる会なのか明確でない。ソフトを広めるのが目的じゃない。
- iRIC研究会しかできない機能をすべき。
- 講習会を通じて吸い上げる現場のニーズを吸い上げる仕組みが大事。
- iRIC研究会の中からニーズが出てこない。基本的には要望が少なくなっている。
- ポリラインを可視化ウィンドウにも出せるようにしてほしい。
- 自社ソフトと併用で済むので要望が出しにくい。なんでも言える雰囲気が無くなっている。

# 本日のご提案

## iRIC研究会会長の交代

iRIC設立当初からの仲間であり、優秀な研究者で、若手からの人望も厚い、京都大学**竹林先生**を推薦させていただきます。



いつの写真かな？